

いわゆる薬膳料理に対する意識調査について —人間ドック受診者における調査結果について—

大西 孝司^{*1}・逸見 真理子^{*1}・高澤 卓子^{*2}・林 宏一^{*3}

An Inquiry in Consciousness of So-called Herbal Dishes
—About the Survey of Persons Received “Ningen Dock” (Multiphasic
Health Screenings/Complete Physical Examination)—

Takashi OHNISHI, Mariko HENMI, Takako TAKAZAWA, and Koichi HAYASHI

We investigated the inquiry in consciousness on so-called herbal dishes, for example the knowledgement for cognition and names, places of eating out, health effects on the human body and so on.

The results obtained were as follows :

- 1) We attempted to conduct the inquiry in consciousness on so-called herbal dishes on 182 males ranging in age from 27 to 75 (average 48.8) and 69 females ranging in age from 24 to 73 (average 48.4) of the persons who received “Ningen Dock (Multiphasic Health Screenings/Complete Physical examination)” in May 2013.
- 2) The ratio of persons with knowledgement so-called herbal dishes was 34.0%.
- 3) The most used food types and names for so-called herbal dishes were ginger, sesame, ukon (curcuma longa) and garlic.
- 4) The most common places for eating of so-called herbal dishes were restaurants and so-called herbal dishes cooked at home was 2.5%.
- 5) The most expected effects of so-called herbal dishes were fatigue recovery, regulation of stomach and intestines and hastening of blood circulation.

Key words : Herbal Dishes, Inquiry in Consciousness Inquiry, Ningen Dock (Multiphasic Health Screenings/Complete Physical Examination)

I 目 的

近年、日常生活が多様化し、食生活をはじめとする生活習慣の変化や運動不足・ス

トレスの増加などが問題となっている。

栄養分野にも科学的根拠に基づいた栄養学が求められるようになり、栄養素の摂取と健康状態の関連の重要性が認識されるよ

キーワード：薬膳料理, 意識調査, 人間ドック受診者

※1 本学人間生活学部食品栄養学科

※2 香川県三豊市立和光中学校

※3 武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科

うになってきた。日々、健康の維持増進のためにどれくらいの栄養素を摂取すればよいか、また、食品の摂取基準に関しては「日本人の食事摂取基準 2010 年版¹⁾」として発表されており、栄養素が食生活を評価する重要な指標となってきた。

栄養素は科学的な分析に都合のよい指標ではあるが、同じような栄養素構成でも食材の組み合わせが異なった場合、その料理を食べることで得られる効果も違ってくる可能性がある。食生活の改善法の一つであると考えられる薬膳はそれぞれの食材には意味があることを念頭に置いたうえで、食材と中薬（中医学で用いる薬物の総称）を配合し、それらの組み合わせ、すなわち料理の持つ特質というものを評価している。ただし薬膳とは必ずしも中薬・生薬が入っていなければならないというものではなく、薬と同じようにからだにより効果を与える食事を指す²⁾。日本において一般に健康食品と呼ばれるものについては、法律上の定義はなく、厚生労働省によれば、広く健康の保持・増進に資する食品として販売・利用されるもの全般を指している³⁾。

また、現在医療分野では個人に合ったテーラーメイド医療が進められているが、薬膳は元々個人に適した食事というものを基本としており、この部分で現代人の価値観とも合致するものがある。中医学を基本とした薬膳を修得し、栄養分野でこれを実践することは、個人の健康維持増進に寄与する予防栄養学の実践を可能なものにするといえる。

しかし国民の健康志向に対する意識が高まっているとはいえ、未だ薬膳の世間一般に対する認知度は低いのが現状である。また、健康食品と同様に、薬膳も中医学の考え方を無視し、誤った利用方法をすれば健康被害の一因となる可能性がある。中医学の食療学には 300 品以上の食材が記載され

ており、これらの食材の多くは日本においても食品として認められている。これらの事より正しい薬膳に関する知識を身につければ日本家庭の食卓にも薬膳料理をあげていくことが可能であるといえる。

本研究では、薬膳をどのように理解し、利用しているかを知るために、人間ドックを受診した 29 歳～74 歳の男女 251 人に対し“薬膳に関する調査”をアンケート形式により行った。

今回のこの調査は健康状態と薬膳との関連性を追求し、薬膳が社会にどれほど普及しているかを調査し、正しい薬膳に関する知識を浸透させていくための方法を検討することを目的としたものである。

Ⅱ 対象及び方法

アンケート調査の対象者は、総合健診機関で人間ドックを受診した 29 歳～74 歳の男女 251 名である。アンケート調査については、上記健診機関が作成した問診票（以下：「問診票」とする）と我々が作成した薬膳に関する調査表（以下：「調査表」とする）の 2 通りの調査票（表）を用いた。

表 1 質問事項

質問事項	
対象者の情報	性別
	年齢
	健康状態
薬膳に対する意識	健康食品の利用状況
	薬膳を知っているか
	薬膳の情報の入手源
	薬膳に関するイメージ
	薬膳に求める効果
薬膳の利用実態	薬膳の利用状況
	薬膳の利用理由
	薬膳の利用効果
	薬膳の使用食材

調査方法としては、上述の質問紙法を用いたアンケート調査を実施した。

調査対象者に調査の概要、調査目的・方法を文書により説明し、その意思による同意を得た。また、研究対象者のプライバシーを完全に保護するため、得られたデータは全て匿名化することを説明し、成果公表及び研究への利用の同意を得た。我々の「調査表」は、論文とインターネット上の薬膳普及のためのサイトを参考に作成した⁴⁾⁵⁾。

調査時期は、平成 25 年 5 月 8 日から 5 月 21 日である。

「調査表」におけるアンケート項目は、表 1 に示すように薬膳に対する意識、利用実態等 12 項目とした。なお、総合健診機関の間診結果と我々の調査表の項目の関連性に関しては、今回、X 二乗分析法による有意差検定を行った。

Ⅲ 結 果

1. 対象者の属性

1) 性別

「男性」182 名 (72.5%)、「女性」69 名 (27.5%) であった。

2) 年齢

「50 代」が 94 名 (37.5%) と最も多く、次いで「40 代」が 89 名 (35.5%)、「30 代」が 44 名 (17.5%)、「60 代」が 18 名 (7.2%)、「70 代以上」が 4 名 (1.6%)、「20 代」が 2 名 (0.8%) であった。

男女別では、男性が「20 代」1 名 (0.5%)、「30 代」28 名 (15.4%)、「40 代」71 名 (39.0%)、「50 代」66 名 (36.3%)、「60 代」14 名 (7.7%)、「70 代以上」2 名 (1.1%) であった。女性は、「20 代」1 名 (1.4%)、「30 代」16 名 (23.2%)、「40 代」18 名 (26.1%)、「50 代」28 名 (40.6%)、「60 代」4 名 (5.8%)、「70 代以上」2 名 (2.9%) であった。

3) 健康状態 (図 1)

「疲れやすい」、「肩こり」が 84 名 (20.6%)、

82 名 (20.1%) と最も多かった。残りの項目はほとんど差が見られなかった。

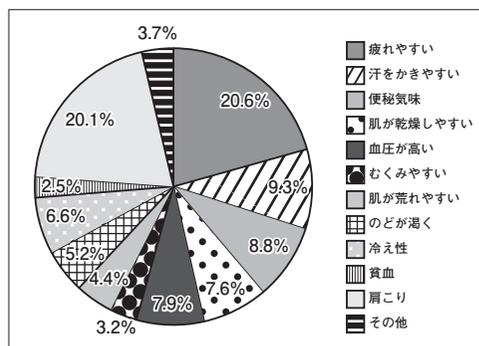


図 1 健康状態

(複数回答可：なお、図中の数値は、各々の項目の回答数を全体の合計数との百分率で表したものである。以下、複数回答の場合同様とする。)

2. 薬膳に対する意識 (図 2)

1) 健康食品の利用状況

「乳酸菌飲料」が 62 名 (35.0%)、次いで「サプリメント」が 54 名 (30.5%)、「野菜ジュース」が 49 名 (27.7%) であった。

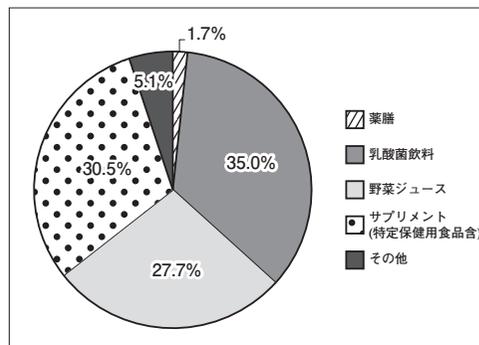


図 2 健康食品の利用状況 (複数回答可)

2) 薬膳を知っているか

薬膳を知っているかは、「はい」が 85 名 (34.0%)、「いいえ」が 165 名 (66.0%) であった。

また、薬膳教室を知っているかは、「はい」が 6 名 (8.1%)、「いいえ」が 68 名 (91.9%)

であった。薬膳について知りたいかは、「はい」が74名(44.6%)、「いいえ」が92名(55.4%)であった。

「いいえ」のうち、知りたくない理由は「おいしくなさそう」が23名(31.1%)と最も多く、次いで「作るのが面倒」が21名(28.4%)であった(図3)。

また、薬膳教室に行ってみたいかは、「はい」が23名(31.5%)、「いいえ」が50名(68.5%)であった。

薬膳に興味があるかは、「はい」が53名(34.4%)、「いいえ」が101名(65.6%)であった。

3) 薬膳の情報の入手源

「本・雑誌」が60名(45.1%)、「テレビ・ラジオ」が50名(37.6%)と約8割を占めていた(図4)。

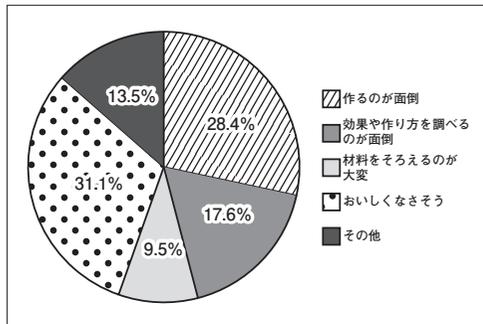


図3 薬膳を知りたくない理由

4) 薬膳に関するイメージ

「健康に良い」が191名(27.6%)と最も多く、次いで「漢方薬や生薬を使っている」、「家庭で作るのは大変そう」が各々88名(12.7%)、92名(13.3%)、「栄養のバランスが良い」、「カロリーが低そう」が各々71名(10.3%)、67名(9.7%)であった(図5)。

また、薬膳を食べたことがない人に対して今後食べてみたい、作ってみたいと思うかどうか質問したところ、108名(52.2%)の人がそのように考えていることが分かった。

5) 薬膳に求める効果

どのような症状に効果のある薬膳があれば食べてみたいか質問したところ、「疲労改善効果」が146名(21.7%)と最も多く、次いで「胃腸の調子を整える」が92名(13.7%)であった(図6)。

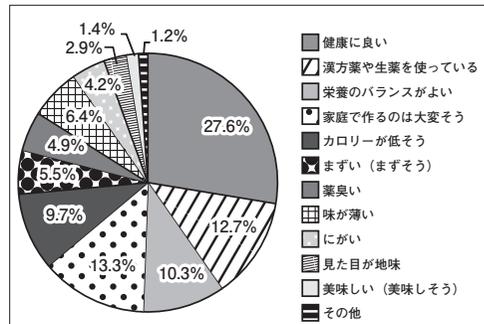


図5 薬膳のイメージ (複数回答可)

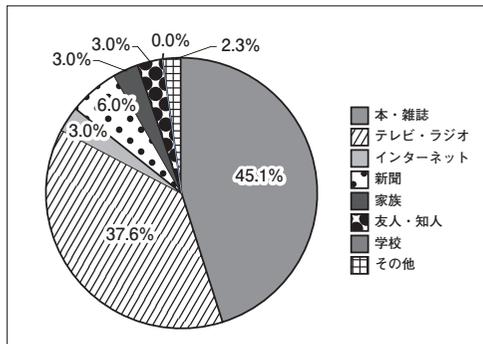


図4 情報の入手源 (複数回答可)

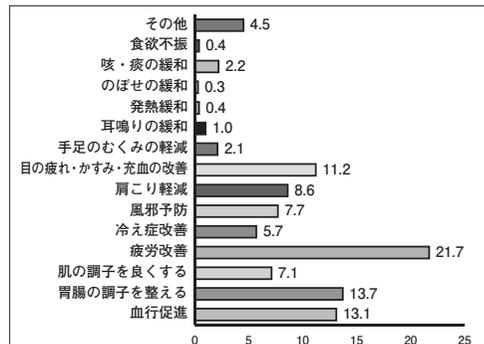


図6 薬膳に求める効果 (複数回答可、横軸は全体に占める各項目の回答数の割合である。以下、図8、図12、図13も同様)

2. 薬膳の利用実態

1) 薬膳の利用状況

薬膳を食べたことがある人に対して薬膳をどこで食べたか質問したところ、「飲食店」で食べたと回答する人が34名(85.0%)だった(図7)。

一緒に食べた人を質問したところ、「友人・知人」と食べたと答えた人が23名(63.9%)と最も多く、次いで「家族」と食べた人が10名(27.8%)であった。

薬膳を食べて何か体調の変化を感じたか質問したところ、「特に変化を感じなかった」人が29名(72.5%)と多かったものの、一部

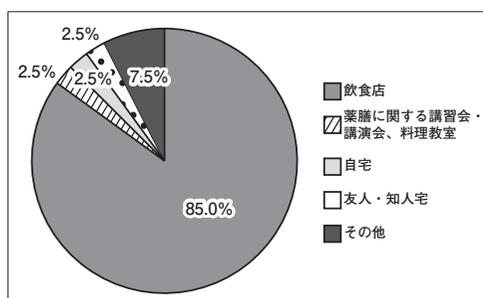


図7 薬膳を食べた場所 (複数回答可)

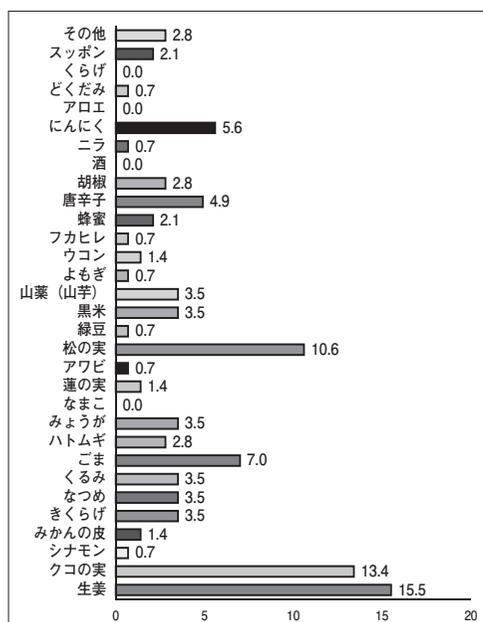


図8 食べた薬膳の使用食材 (複数回答可)

では「血行が良くなった」6名(15.0%)の他、「胃腸の調子が整った」人も2名(5.0%)いた。

食べた薬膳に使われていた食材を質問したところ、「生姜」が22名(15.5%)、「クコの実」が19名(13.4%)、「松の実」が15名(10.6%)だった(図8)。

2) 薬膳の利用理由

薬膳を食べたきっかけとしては、「友人に誘われた」、「友人に勧められた」がそれぞれ10名(27.8%)、7名(19.4%)であった(図9)。

3) 薬膳の利用効果

薬膳で使用される食品にどのような効果があるかを知っている人は15名(17.9%)、知らない人は69名(82.1%)であった。

薬膳に使用されていた食材の中で効果について質問したところ、「血行促進」効果があると答えた人が21名(30.9%)、「疲労改善」効果があると答えた人は12名(17.6%)だった(図10)。

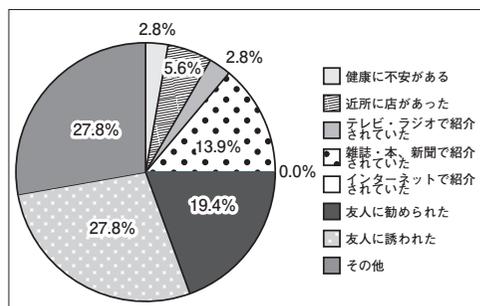


図9 薬膳の利用理由

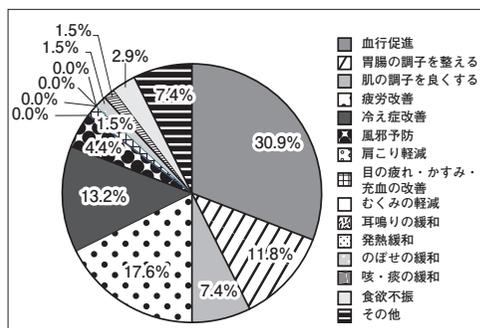


図10 食べた薬膳の効果 (複数回答可)

また、これを何で知ったか質問したところ、最も多かったのは「本・雑誌」で13名(36.1%)、次いで「テレビ・ラジオ」、「友人・知人」と答えた人がともに8名(22.2%)だった(図11)。

4) 薬膳の使用食材

薬膳で使用されていた食品は、下図に示したとおりである(図12)。

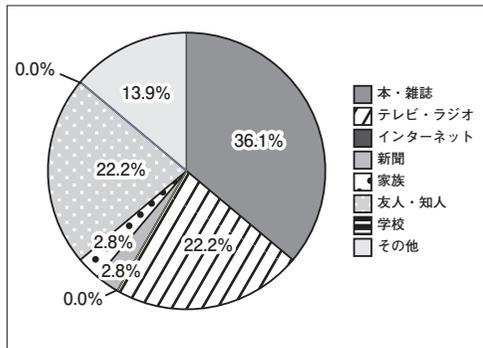


図11 薬膳効果の情報の入手源(複数回答可)

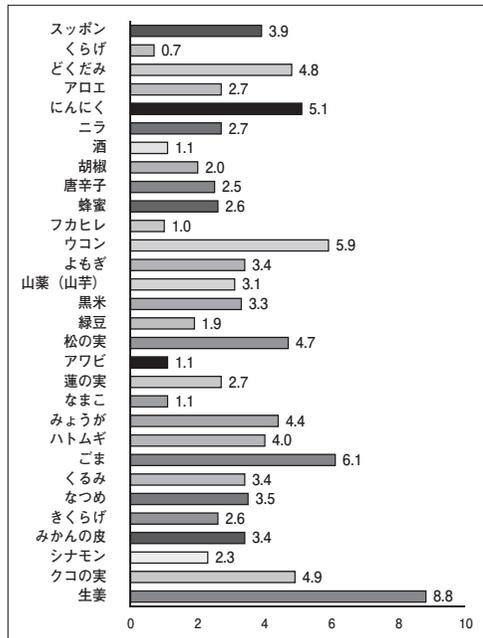


図12 薬膳の食材(複数回答可)

知っている食材の効果について質問したところ、生姜が12名(92.3%)、すっぽんが1名(7.6%)と各々答えた(表2)。なお、この表は、解答結果をそのまま記載したものである。

使ってみたい食材としては、「生姜」が132名(10.0%)と最も多く、次いで「にんにく」が98名(7.4%)だった(図13)。

表2 知っている食材の効果

生姜(12人)	滋養強壮、体力回復、毒消し
	体をあたためる
	体をあたため、血行がよくなる
	体をあたためる
	血流改善
	体をあたためる
	体をあたためる
	冷え性に効果がある
	体をあたためる
	体をあたためる
	血流をよくし、内臓の働きを活発にする
血行促進	
すっぽん(1人)	美肌・老化防止に効果がある

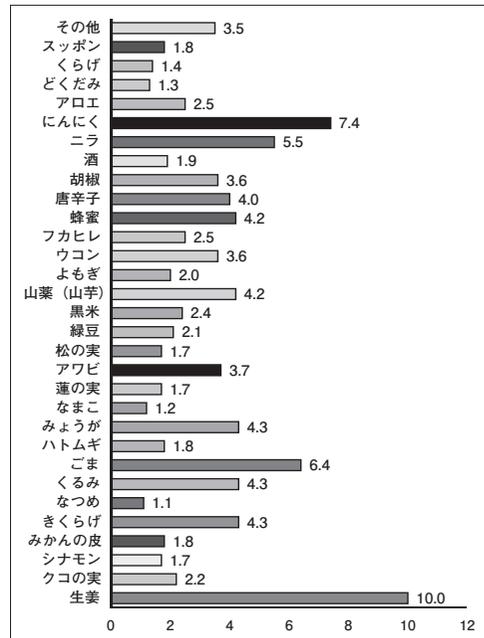


図13 使ってみたい薬膳の食材(複数回答可)

4. 総合検診機関の問診結果と我々の結果との関連について

1) 調査票と問診票の結果の比較

表3 「薬膳を知っている」、「野菜・海藻類を多く摂る」との関連

薬膳を知っている 野菜・海藻類を多く摂る	はい	いいえ	総数
はい	68	117	185
いいえ	13	50	63

P < 0.05

「薬膳を知っている」と「野菜・海藻類を多く摂る」との相関性については有意差が見られた(表3)。

表4 「薬膳を知っている」、「塩分を控えている」との関連

薬膳を知っている 塩分を控えている	はい	いいえ	総数
はい	48	70	118
いいえ	33	97	130

P < 0.05

「薬膳を知っている」と「塩分を控えている」との相関性については有意差が見られた(表4)。

表5 「薬膳教室を知っている」、「自分で食事を作る」との関連

薬膳教室を知っている 自分で食事を作る	はい	いいえ	総数
はい	9	34	43
いいえ	6	85	91

P < 0.05

「薬膳教室を知っている」「自分で食事を作る」との相関性については有意差が見られた(表5)。

表6 「効果を知っている」、「野菜・海藻類を多く摂る」との関連

効果を知っている 野菜・海藻類を多く摂る	はい	いいえ	総数
はい	11	62	73
いいえ	5	11	16

P > 0.1

「効果を知っている」と「野菜・海藻類を多く摂る」の相関性については有意差は見られなかった(表6)。

Ⅳ 考 察

今回、人間ドック受診者を対象として薬膳に対する意識調査を実施した。その結果、薬膳に対する意識調査での5つの質問事項から、次のようなことを明らかにすることができた。

まず、『健康食品の利用状況』について、調査票から得られた結果では、「乳酸菌飲料」(35.0%)、次いで「サプリメント(特定保健用食品含)」(30.5%)、「野菜ジュース」(27.7%)であった。「薬膳」と回答した人は全体の1.7%であり非常に低いという結果になった。乳酸菌飲料やサプリメント、野菜ジュースは種類が豊富で、価格の幅も広く、商品を取り扱っている店も多いため、手軽に利用することができる。それに対して、薬膳は料理や食材を提供している店が少なく、調理に専門的な知識が必要であり、また、『薬膳を知っているか』に対する結果からも分かるように薬膳自身の認知度も低いと考えられる。

「はい」と回答した人(34.0%)に対し、『薬膳料理の使用食材としてどれを知っていますか』と質問したところ、認知度が高かったのは「生姜」(8.8%)、「ごま」(6.1%)、「ウコン」(5.9%)の順であった。しかし実際にその食材がどんな症状に効果があるかを知っている人は17.9%と少なかった。我々は野菜や海草類の摂取量が多い人ほど健康に対する意識が高く、薬膳について知っていると推定し、問診票の『野菜や海草類を多くとるようにしている』と調査表の『薬膳を知っているか』の結果とを比較したところ、明らかな有意の差を見ることができた(p < 0.05)。このことから、日常の食生活と薬膳の知識との関係を正しく理解し

ている人が多かったものと考えられた。また、塩分の摂取量が少ない人ほど健康に対する意識が高く、薬膳について知っている」と推定し、問診票の『塩分を控えている』と調査表の『薬膳を知っているか』との間の結果を比較した結果、これについても同様に明らかな有意の差を見ることができた ($p < 0.05$)。

『薬膳を知っているか』という質問に対し、「いいえ」と回答した人へ『薬膳について知りたいか』と質問したところ、「はい」(44.6%)、「いいえ」(55.4%)という結果が得られた。更に「はい」と回答した人に対して『薬膳教室を知っているか』と質問したところ「はい」(8.1%)、「いいえ」(91.9%)となった。さらに、『薬膳教室に行ってみたいか』という質問を行ったところ、「はい」(31.5%)、「いいえ」(68.5%)という結果になった。我々は調理担当者が本人であれば薬膳教室に行ってみたいと考えていると推定し、調査表の『薬膳教室について知っているか』という質問と問診票の『食事を作っているのは主に誰か』という結果とを比較した。その結果、このことについても明らかな有意差を見ることが出来た ($p < 0.05$)。このことから、薬膳教室が開催されていることを知っている人と、健康等のために自分で食事を作っているという人との間に、密接な関係があるということを示唆していた。

『薬膳の情報の入手源』について、「調査票」から得られた結果では、「本・雑誌」(45.1%)、「テレビ・ラジオ」(37.6%)であった。これらは、我々にとって一番身近な情報源となるものであり、普及率も高いツールであることから、このような結果になったと思われる。また、近年普及が著しいとされるインターネットからの情報入手をしている人の割合は3.0%であった。このことからデジタルツールからの情報入手

よりもアナログツールからの情報入手を行っている人のほうが多いということが判明した。このことはおそらく健康など、自分の身体に直接影響するものについての情報は、より信頼性が高く確実な情報を得たいと考える人が多いという現代人の考えの表れではないかと考えられる。一昨年人間ドック受診者に実施した意識調査結果(6)と比較すると、最も多かったのが「テレビ・ラジオ」(62.2%)、次いで「新聞・雑誌」(47.4%)という結果であった。このことから、テレビやコマーシャルが少ない理由は、薬膳自体を取り扱っている店が少なく、テレビでは取り上げられにくいためであると推測される。また、薬膳は中華料理の一部として取り扱われている場合が多いため、薬膳料理単体では特集されにくい。本・雑誌が多い理由として、薬膳は商品ではなく料理であるため、本や雑誌で紹介されているのではないかと考えられる。

『薬膳に関するイメージ』について、調査票から得られた結果では、「健康に良い」(27.6%)が最も多く、次いで「家庭で作るのは大変そう」(13.3%)、「漢方薬や生薬を使っている」(12.7%)、「栄養のバランスが良い」(10.3%)、「カロリーが低そう」(9.7%)であった。「健康に良い」、「栄養のバランスが良い」、「美味しい(美味しそう)」といったポジティブなイメージを抱かせる項目を合わせると39.3%になるのに対し、「家庭で作るのは大変そう」、「まずい(まずそう)」、「薬臭い」、「味が薄い」、「にがいがい」、「見た目が地味」といったネガティブなイメージを抱かせる項目を合わせると37.2%となった。食の機能化に対する消費者の価値意識に関する実証的研究によると、日常の食事において重視する言葉として「健康」と回答した人の割合が最も多く、今回の調査で『薬膳に関するイメージ』として「健康に良い」と回答した人の割合が

多かったことは、消費者の健康に対する意識の高まりを反映しているものといえる。

『薬膳に求める効果』について、調査票から得られた結果では、「疲労改善効果」(19.5%)、次いで「胃腸の調子を整える」(13.1%)、「血行促進」(12.8%)であった。平成19年度に実施された食の機能化に対する消費者の価値意識に関する実証的研究⁷⁾において、日常に取り入れたい食品の効果を質問したところ「疲労回復に効果のある食品」、次いで「お腹の調子を整える食品」が多く、今回実施した薬膳のアンケート結果と似たような結果となった。食の機能化に対する消費者の価値意識に関する実証的研究³⁾は全国2000人を対象としているため、石川県だけではなく全国的にも疲労回復・改善の効果が求められているといえる。

次に『薬膳の利用実態』について、利用実態に関する意識調査の中で4つの質問事項からは次のようなことが考えられた。

『薬膳の利用状況』について本調査結果では、薬膳を食べた経験を持つ者の中で『食べた場所』を質問したところ「飲食店」が最も多く全体の85%を占める結果となった。この結果と前述の薬膳の意識に関するアンケートの結果から薬膳を作ることは面倒であると考えている者が多いから飲食店で食べる者が多いのではないかと推測される。

また、『一緒に食べた人』を質問したところ、「友人・知人」と食べたと答えた者が63.9%と最も多く、次いで「家族」と食べた者が27.8%であった。このことから考えられるのは、薬膳を食べる理由は疾病予防や改善目的ではなく、他者とのコミュニケーションを目的としているのではないかと推測される。『薬膳を食べて体調の変化を感じたかどうか』を質問したところ、「特に変化を感じなかった」者が多かった。このことから、1度食べただけでは効果は得られにくいのではないかと推測される。『食

べた薬膳に使用されていた食材』を質問したところ、「生姜」や「クコの実」、「松の実」と答えた者が多かった。このことから、これらの食材を食べると薬膳を食べたという意識が強くつき、印象にも残るため、飲食店でも積極的に薬膳に使用しているのではないかと推測される。また、馴染みのある食材を使うことで受け入れやすさも高まっていると推測される。しかし、項目に挙げている食材を理解できないために選択していない食材がある可能性も考えられる。

次に『薬膳の利用理由』については「友人に誘われた」からと回答した者がもっとも多く、27.8%であった。2番目に多い「友人に勧められた」からの19.4%とあわせると約50%であった。

『利用効果』について調査したところ、薬膳で使用されている食材の効果を知っている人は、全体の17.9%であり、過半数が知らないという結果となった。このことから、薬膳は世間にあまり普及していないと推測される。前述の薬膳の意識に関するアンケートの結果とも合わせて考えると、薬膳という名称は知っているが、効果等の詳細な情報は知らない人が存在すると言える。

我々は野菜や海草類の摂取量が多い人ほど、健康に対する意識が高く、薬膳の食材の効果について知っていると予想し、問診票の『野菜や海草類を多くとるようにしている』という結果と調査表の『薬膳の食材の効果を知っているか』の結果を比較してみた。ただ残念なことに、これらの関係については有意な差を見ることは出来なかった($p>0.1$)。

また、『食材とその効果について知った手段』を質問したところ、「本・雑誌」が36.1%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が22.2%であった。薬膳に関する本は数多く出版されているため、最も多いという結果になったと推測される。テレビでは薬膳

に関する番組があまり多くはないにもかかわらず、全体の22.2%が選択しているということは、メディアによる宣伝効果が大きくまた印象に残りやすく、今後の薬膳普及に利用できると考えた。

『薬膳の使用食材』に関する質問の中で、『薬膳に使用される食材で知っているもの』を選択してもらったところ、選択項目にあるすべての食材が同程度知られていた。また、『使用してみたい食材』を選択してもらったところ、「生姜」や「にんにく」等日常生活の食事に取り入れやすい食材を選択する傾向にあった。このことから、使いやすい食材なら薬膳をつくってみようと考ええる者が多いと推測される。

V まとめ

本研究では、薬膳をどのように理解し、利用しているかを知ることを目的とし、人間ドックを受診した29歳～74歳の男女251人に対し“薬膳に関する調査”をアンケート形式により行ってきた。

今回の研究から、次のような結果が得られた。

1. 乳酸菌飲料やサプリメントと比較すると、健康食品として薬膳を日常的に利用している人は全体の1.7%と非常に少ない。
2. 薬膳に使用されている食材についても、食材の名称は知っているものの、実際にその食材が体に与える効果を正しく理解している人は少ない。
3. 薬膳に使用してみたい食材としては、「生姜」や「にんにく」等日常生活の食事に取り入れやすい食材を選択する傾向にあった。
4. 薬膳に関するイメージとして、人間ドック受診者は「健康に良い」と回答した者が全体の27.6%と最も多かった(図5)。

以上から、薬膳の認知度は低いが、一般に薬膳は健康に良いものであるというイメ

ジが浸透しつつあるため、正しい知識の普及や日常生活に取り入れやすい食材を用いた薬膳レシピの提供、薬膳教室の活用をしてもらうことで、より消費者の普及・啓発の関する関心を高め、更に薬膳の認知度を向上していくことが出来ると推測される。

文 献

- 1) 厚生労働省：日本人の食事摂取基準 2010年版 (2010)
- 2) 徳井教孝, 三成由美, 張再良, 郭忻：薬膳と中医学, 建帛社, 東京 (2003)
- 3) 厚生労働省：「健康食品」のホームページ <http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/hokenkinou/index.html>
- 4) 藍石, 酒井英二, 田中俊弘：日本における医食同源の役割 古くて新しい食科学である薬膳学について, 岐阜薬科大学紀要, Vol. 51, 47-53 (2002)
- 5) アンケートファミリーネット・ジャパン TEPORE：「大人の食学—はじめての薬膳—」のホームページ <http://www.tepore.com/research/gourmet/080703/index.htm>
- 6) 大西孝司, 逸見真理子, 逸見佐恵子, 高澤卓子, 村上沙緒莉, 林宏一, 岡田茂：いわゆる「健康食品」に対する意識調査(Ⅲ)—人間ドック受診者における調査結果について—, ノートルダム清心女子大学紀要 人間生活学・児童学・食品栄養学編, 第36巻, 10-26 (2011)
- 7) 上野伸子：食の機能化に対する消費者の価値意識に関する実証的研究, 浦上食品食文化振興財団報告書 (2008)

謝 辞

今回の調査を実施するにあたり、アンケート調査表の記載にご協力いただきました本学人間生活学部食品栄養学科の皆様には謝意を表します。